

静脈注射・採血を受けられる方へ

「静脈注射・採血」は、病気の診断、病状の把握、治療を行うための重要な検査・処置です。基本的に静脈注射・採血は安全性の高い手技ですが、時にはしびれや痛みなどの合併症が発生することもあります。当院でも静脈注射・採血には細心の注意を払い実施させていただきますが、このような「静脈注射・採血」の必要性・合併症をご理解の上、静脈注射・採血をお受けいただきますようお願いいたします。

静脈注射・採血時の主な合併症

1. しびれ

穿刺部位にしびれや痛みが限定している場合は、概ね 1 週間ほどで良くなります。しかし、1 週間以上経過しても良くならない場合は、神経障害などを起こしている可能性があります。

2. 神経障害・複合性局所疼痛症候群

静脈注射・採血後に手指に広がるしびれ、痛みが 1 週間以上続き治療が必要となることもあります。約 1 万～10 万回の静脈注射・採血に 1 回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経分布は、個人差が大きいため、神経損傷を 100%防止することはできませんが、通常の静脈注射・採血では、太い神経の断裂などの可能性は低いです。

3. 止血困難・皮下血腫

抜針後の不十分な止血などが主な原因です。十分な圧迫止血をしていただきますよう、お願いいたします。

4. アレルギー

静脈注射・採血時の消毒薬やスタッフのラテックス手袋(ゴム製品)などで、かゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現することがあります。

5. 血管迷走神経反応

心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ、静脈注射・採血前後に生じることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がる、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こします。一般的に 100 人～1万人に一人の頻度で起こるとされています。

※これらの症状が生じた場合には、速やかに申し出てください。最善の処置を行います。
なお、その際の医療は通常の保険診療となり、ご負担が発生します。